

次期 香川県農業・農村基本計画素案について

基本目標

農業の持続的な発展と活力あふれる農村づくり

基本方針

○ 儲かる農業の推進

○ 豊かな食の提供

○ 魅力ある農村の実現

農業・農村の現状

- 農業従事者の減少・高齢化が進む一方、新規就農者は一定数確保しているものの、その伸びは鈍化しており、認定農業者数は頭打ち
- 作付延べ面積は減少しているものの、農業産出額は一定額を堅持
- 1経営体あたりの経営耕地面積は全国平均の1/3にとどまり、農地集積率、ほ場整備率も全国低位
- 直近10年間で経営規模5～10haの経営体は74%増、10ha以上の経営体は83%増と、規模拡大に意欲的な経営体が多い
- ため池の防災・減災対策は着実に進展
- 多面的機能の維持・発揮に取り組む活動組織数は若干の減少傾向

取り巻く環境の変化

- ① 人口減少・少子高齢社会の到来
- ② グローバル化の進展
- ③ 田園回帰志向の高まり
- ④ ウィズコロナ時代への対応
- ⑤ SDGsの推進
- ⑥ デジタル技術・先端技術の進展
- ⑦ 脱炭素化の推進
- ⑧ 頻発化・激甚化する自然災害等のリスクへの備え

施策体系

1. 担い手の確保・育成

① 新規就農者等の確保

指標

新規就農者数(累計)	750人
新たな認定農業者数(累計)	500経営体
認定農業者である農業法人数	343法人→400法人

② 担い手の育成・支援

③ 農業経営力の向上

2. 農産物の安定供給

- ① 農産物の生産振興
- ② 新品種・新技術の開発
- ③ 食の安全・安心の確保
- ④ 環境に配慮した農業の推進
- ⑤ セーフティネット対策の推進

指標

県オリジナル品種作付面積	246ha → 300ha
オリーブ生産量	500t → 600t
盆栽輸出数量	12千本 → 14千本
和牛繁殖雌牛頭数	1,670頭 → 1,750頭

3. 農産物の需要拡大

- ① 戦略的な販売促進・情報発信の実践
- ② 流通の合理化・効率化
- ③ 地産地消の推進
- ④ 6次産業化の推進

指標

さぬきの夢取扱店	85店舗 → 210店舗
地産地消協力店	351店舗 → 380店舗
6次化に取り組む農業経営体数	118経営体 → 168経営体
ブランド農産物の生産量	37,960t → 41,810t

4. 生産性を高める基盤整備

- ① 農地集積・集約化と農地の確保
- ② 農地・水利施設の整備
- ③ スマート農業の推進
- ④ ため池の防災・減災対策
- ⑤ 防疫体制の整備

指標

農地中間管理事業による貸付面積	2,294ha → 3,400ha
スマート農業技術導入経営体数	64経営体 → 150経営体
防災重点ため池整備数	3,541箇所 → 3,651箇所
飼養衛生管理遵守率	85.7% → 100%

5. 活力あふれる農村の振興

- ① 多面的機能の維持
- ② 農村の活性化
- ③ 鳥獣被害防止対策の推進

指標

多面的機能活動面積	14,280ha → 15,000ha
グリーン・ツーリズム交流施設の体験・宿泊者数	84,300人 → コロナ前(171,400人)まで速やかな回復を図る
野生鳥獣被害金額(累計)	7.24億円 → 5億円

トピックス

1 農業・農村を支える多様な人材の確保



2 脱炭素社会の実現に向けた取組み

2050年のカーボンニュートラル実現へ

- 化石燃料から地産地消型エネルギーへの切り換え
- イノベーションによる持続的生産体制の構築
- 農地における炭素の長期・大量貯蔵
- 食料・農産物の加工・流通におけるロスの削減

温室効果ガスの排出抑制

ため池等を活用した太陽光発電

エネルギー利用の効率化

農業用ハウスや農業機械等の省エネルギー化

土壌への炭素貯留

有機物のすき込みや堆肥化による土づくりへの活用

ごみの減量化

食品ロスの削減や未利用農産物の有効活用

3 県産農産物の需要拡大

新型コロナの影響

- 県産農産物の消費減少**
- 飲食店など外食需要の縮小
 - 観光・インバウンド需要の消失
- 消費者の生活や意識の変化**
- 家庭需要の拡大(巣ごもり消費)
 - 国産志向の高まり

新たな需要の創出・消費拡大



イベントやトップセールスを駆使した県産農産物の販売促進



野菜・果樹・花き・畜産物を一体的にプロモーション

変化に対応した取引づくり・情報発信



ネット販売・テイクアウトなど多様化する販売形態に対応した取引づくり



デジタルマーケティングを活用した効果的でタイムリーな情報発信

4 スマート農業の推進

普及啓発 → 導入支援 → 実装へ

- 情報の収集・発信
- 触れる機会の創出
- スマート農業への意識改革
- スマート農業の実証
- 本県農業の実態に合ったスマート農業技術・機器等の開発

省力化

ロボット技術等活用型農業

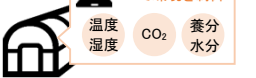
ドローン防除、ラジコン草刈機等の活用により作業の大幅な省力化を実現



収量増加・品質向上

データ駆動型農業

生産工程や栽培環境データを「見える化」



5 新しい人の流れによる農村の活性化

農泊、グリーン・ツーリズムの推進 → 農村ファンの創出・拡大 → 多様な人材の移住・定住

第1ステージ 交流人口

- 地域資源を活用した交流促進活動や農業体験の企画・造成
- 都市住民等への情報発信

第2ステージ 関係人口

- 棚田を核とした地域振興
- 農産物オーナー制度の推進
- リモートワーク・ワーケーションの推進

第3ステージ 移住・定住

- 半農半Xの受入れに向けた支援
- 就業体験、交流活動の開催
- 暮らしに関わる情報発信

新たな人の流れ

